

2 巡目国体に向けた県有スポーツ施設の整備について

教育庁スポーツ振興課
総合政策部総合政策課

1 県有スポーツ施設の現状と課題

(1) 現状

施設名	建設年度	昭和54年国体実施競技
宮崎県総合運動公園		
陸上競技場	昭和48年	総合開会式、陸上競技
第2陸上競技場	昭和48年	陸上競技
第3競技場（サッカー場）	昭和47年	サッカー
ラグビー場	昭和47年	—
補助球技場	昭和47年	ホッケー
軟式野球場	昭和46年	—
第2硬式野球場（ひむかスタジアム）	昭和49年	—
水泳場	昭和48年	水泳（競泳・飛込）
テニスコート	昭和49年	テニス
自転車競技場	昭和53年	自転車
武道館	平成10年	—
硬式野球場（サンマリンスタジアム）	平成13年	—
木の花ドーム	平成16年	—
宮崎県体育館	昭和43年	体操、空手道、閉会式
宮崎県ライフル射撃競技場	昭和53年	ライフル射撃

(2) 課題

- ① 昭和54年宮崎国体のために整備された施設の老朽化が進んでおり、県総合運動公園の陸上競技場や水泳場は、現在の国体施設基準に適合していない。
- ② また、県体育館は、老朽化が進み、空調施設もないため、大会運営上の安全性の確保や全国規模の大会開催が困難な状況にある。
- ③ 県総合運動公園（海拔2m～5m）は、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定区域（2m～10m）に位置している。

2 施設整備における検討の視点（案）

(1) 機能性

競技を円滑に実施できる施設機能や、来場する選手・観客の利便性（ユニバーサルデザインなど）を確保する。

(2) 将来の活用

国体等終了後もスポーツランドみやざきを支える中核的施設として活用するとともに、本県の観光をはじめとする地域振興にも役立つものとする。

(3) 安全性

地震や津波等の災害発生も想定して利用者の安全性を確保する。

(4) 経済性

建設費や維持費について、そのコストを可能な限り抑えること。

3 検討方法

- (1) 庁内検討会議（副知事を議長とし、関係各部長で構成）
- (2) 業務委託による調査研究（国体準備スタートアップ事業）
- (3) 市町村や競技団体との協議及び意見聴取

4 今後の主なスケジュール（案）

年 月	スケジュール	検討内容等
28年6月	県内スポーツ施設の現状整理	競技実施に必要な機能等を踏まえ、現状と課題を整理
	↓	
	改築が必要な県有施設の整理	競技実施にあたり改築が必要な県有施設を絞り込む
	↓	
	整備地選定の考え方の整理	改築が必要な大規模施設について、整備する場所や手法を検討
12月	施設整備方針案の中間まとめ	
	↓	
29年3月	基本構想案	

※「国体準備スタートアップ事業」における主な調査事項

- ① 現況調査
施設及び周辺地域の調査
- ② 整備施設
施設機能及び規模、費用等
- ③ 整備場所
整備候補地の調査及び評価
- ④ 事業手法
各種補助制度やPFI方式の活用